



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Yes, we can change 「私たちは変えられる」
“Action” 「アクション」
「為せば、成る」 No challenge No fruits
「未来はそれに備える人のものである」
「入りたいな」と思われる楽しい例会に

2018年11月号
NO 506

そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。
そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。
ルカによる福音書11章9節

彼らと友達になれないか？

神谷幸男

わがクラブに会員増強は喫緊の課題ではあるが、会員増強は部と協力関係の中で進めて行くことになる。さて、会員増強はさておき、ボランティアに興味や関心を持っている若い人は少ない。彼らをクラブの活動や特に例会に誘い込むことを考えてみたいと思う。まずは身近なところに目を付けて、杉並区にある6つの大学・短期大学の学生をターゲットとする。

「杉並ボランティアセンター」(杉並社会福祉協議会の一部局)の機関紙「ボラン・て」によると杉並区内に6つの大学(短期大学を含む)があり、これらにはボランティアサークルがあり、またボランティア活動を学校の教育の一環として講座を持っているところが多いとのことである。

これらサークルに属して活動している学生、および講座受講生

は数百人程いるのではないかと推定される。そして多くの学生たちは実際に地域でボランティア活動を行っていて、その内容を見ると幼児・児童を対象とした遊び相手、イベントの支援(企画、進行)、環境教育、障がい者・高齢者を対象とした介助、ゴミ回収や公園等の清掃、外国人を対象とした生活支援、災害被災地復興支援等々を行っている。

そしてこの活動を通して相手方からの感謝と笑顔を得て、やってよかったという思いと自分自身が成長したと自覚している。しかし「ボラン・て」にはYMCAなる語は1回も書かれていなかった。彼らにYMCAを知ってもらうためにも、わが例会を華やかにするためにも、彼らをクラブ例会に招き入れたいと思っている。その手立てについては今後の課題としたい。

さまざまな紅葉、高尾山の秋 WHOウォーキングのご案内



高尾山薬王院の天狗像

年間250万人が登る高尾山。標高599mながら、変化に富む山容と動植物が豊かな山として愛されています。往復ケーブルカーを利用し、表参道を歩きます。

今回は、安全を考慮し、これまで参加経験のある方に限り、申し込み順に35人に限らせていただきます。

期 日:11月20日(第3火曜日)
集 合:京王線高尾山口駅改札前
9:45

解 散:同 15:00
参加費:800円交通費は個人負担

クラブ役員

会 長 本川 悦子
副 会 長 高嶋美知子
書 記 石井 元子
会 計 河原崎和美
担当主事 木川 拓

10月の記録		ニコニコ	6,090円
在籍者数 15人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	0円
出席者数 12人	コメント 0人	ファンド残高	151,534円
メーカーシップ 1人	ビジター 0人	ホテ校ファンド	8,000円
出席率 93%	ゲスト 8人	ホテ校残高	56,654円
前月修正 -	出席者合計 21人	WHO参加者	23人

11月例会のご案内

今月の強調テーマ：ワイズ理解 ファミリーファスト

TV に押されて子どもの世界から姿を消したかと思われた紙芝居も、その価値が見直されて復活しつつあるとか。今月は中村ルミ子さんをお招きして「大人の紙芝居」を演じていただきます。楽しさの中に心に残る何かを見出すかもしれません。お誘いあわせの上ご出席ください。

日時：11月15日(木) 18:45~21:00

会場：ウエルファーム杉並（4階集会室）

(杉並区天沼 3-19-16 TEL03-5335-7330)

会費：1,500円(ゲスト・ビジター・メネット)

担当：B班(石井、神谷、河原崎、木川)

HAPPY BIRTHDAY

当クラブ該当者なし

受付 河原崎和美
司会 石井 元子

開会点鐘 会長 本川 悦子
ワイズソング 一 同
聖書朗読・感謝 神谷 幸男
挨拶・ゲスト&ビジター紹介 本川 会長
会食
卓話 「紙芝居は人生だ！」

中村ルミ子さん

諸報告 本川 会長
YMCA 報告 担当主事・木川 拓
ハッピーバースデー 本川 会長
ニコニコ 一 同
閉会点鐘 本川 会長

—10月第2例会(事務会)—

日時：10月25日(木)

19:00~21:00

会場：ウエルファーム杉並

出席者：石井、大野、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田

<報告事項>

- ①10月のデータを確認した。
- ②10月の月次会計報告が説明され、一部記載方法を訂正し、承認した。
- ③10月20日(土)甲府にて、第22回あずさ部会が行われ、石井、大野、神谷、神谷M、河原崎、篠原、鳥越、本川が出席した。

- ④山田利三郎さんが、転居のため例会をしばらく休会する。

<協議事項・例会関係>

- ①山田利三郎さんの休会に伴い、担当していた例会会場の申し込みは篠原文恵さんに、BF・切手収集は国際・交流担当の村野絢子さんに交代する。
- ②12月クリスマス例会は、高嶋美知子さん宅で行う。
- ③12月第2例会は、年末のため12月26日(水)17:00に変更する。
- ④あずさ部長公式訪問の時期は、

1月例会を第1希望とし、都合の悪い場合は、先方に2月か3月の決定を委ねる。

<協議事項・例会以外>

- ①次期会長候補の人選を12月第2例会までに決める。
- ②松本クラブ30周年記念例会とアジア賞授賞式(12月15日)の出席者は、現時点で大野、高嶋、鳥越、本川、吉田の5人。
- ③在京クラブ合同新年会は、2019年1月5日(土)京王プラザホテル八王子で開催される。ホストは東京多摩みなみクラブ。

(書記・石井元子)

11月以降の行事

▲12月15日(土)
松本クラブ30周年記念例会とアジア賞授賞式

▲2019年1月5日(土)
在京ワイズ合同新年会

卓話者紹介

中村ルミ子(なかむら・るみこ)さん

NPO 法人じおす「おはなし・てづくり☆ねっと」代表。
東京生まれ、狭山市在住38年。児童文学の作品に「ママがエリコでエリコがママで」「勝手なケイ」(岩崎書店)等がある。1995年から開催された童心社主催「紙芝居作家塾」に参加。教育紙芝居「さくらさんけやきさん」「おじいさんの花」(童心社)等がある。大人の紙芝居「おっばい山」「もも子さんとオレオレ詐欺」(雲母書房)がある。その他、地域の紙芝居、NPO や社会福祉協議会に依頼された作品、手作り紙芝居など多数。

WHO情報が 簡単に得られます

今月のWHOウォーキングのコースの予定と、前月の報告が、パソコンやスマホで、写真入りで見ることが出来ます。

<http://tokyo.ymca.or.jp/community/2018/11/20181106-1.html> QRコード⇒





左写真は例会出席者の皆さん。上は対話を含めてスピーチする井上康子さん

－10月例会報告－

10月例会は18日、「ウエルファーム杉並」で開催された。

この日の卓話者は井上康子さん。テーマは「ドイツ人との上手な付き合い方」でした。康子さんは1974年、ご家族で渡仏、幼稚園時代を過ごし、1年後、当時の西ドイツに移り、以後2017年に帰国されるまで、かの地で過ごされました。

大卒後、マックスブラウン研究所で、音声学と心理学を研究。この組み合わせが凄いなと思いましたが、その後、声の分析、映画台本の翻訳、映画のドイツ語への翻訳吹き替え、発音訓練などを行っていたら、学問と仕事がいよいよ結びつき、なるほどと感心しました。日本語はまだ十分ではないという事でしたが、澁刺とした声で、時々同席下さったゲストの赤池王さんに単語を確認しながら、初めて仏国で幼稚園に入った時の事、小学校でドイツの学校に行ったときの事、楽しいお話を聞かせていただきました。

当初、ご両親はご心配も多かったと拝察いたしますが、ご本人は、何処でもすぐ慣れて溶け込めたそうです。学校で困ったことはまったくなかったとか。子供の適応力はすごいですね。日本人とドイツ人の違いは、ドイツ人は伝えたいことは、遠回しに言わない。特にYesかNoは最初に言う。男女平等の徹底。これは政治家を見るだけでも、納得です。

ドイツ語の発音練習、順番が回ってこなくてよかったと思いました。でも、遠い昔のドイツ語の授業を思い出して、冷や汗ものでした。ビジターには康子さんの母上と、お二人の友人が多かったのですが、多くはクラブ員の吉田明弘さんの小学校(杉並の学習院と呼ばれていたとか)の同窓生と伺い、その団結力に感動しました。

帰路、「学習院に納得でしたね。皆さん素敵なビジターでしたね」という話になりましたら、本川

会長がひとこと「私の小学校もそういわれていた!」。皆で爆笑。今度ぜひ母上の体験談も伺ってみたいと思いました。康子さんの今後のご活躍も楽しみです。

(鳥越成代)

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、高嶋、鳥越、本川、村野、山田、吉田、<メネット>神谷、<ゲスト>井上康子(卓話)、井上千鶴子、赤池王、本田まり、渡辺泰次、渡辺宣子、松崎覚、恒石浩志、<MU>神崎、木川、篠原



秋晴れの相模国分寺、寒川神社

WHO 10月例会報告

10月27日。「前線が通過するため広く雨や雷雨。突風、ヒョウに注意。気温が下がったら頑丈な建物に避難を」と、WHO 史上最悪の予報。それでも小田急線海老名駅には、23人が。ワイズ関係は、石井・本川・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)。

駅前の相模国分寺の七重塔の1/3模型を見て、本物の国分寺跡へ。郷土資料館でスタッフから出土品を中心に説明を受け、広い芝

WHO：相模国分寺跡、高さ65mの塔の礎石を見る

生広場となっている国分僧寺跡で、ありし日の伽藍を心に描きながら解説を聴きました。近くにある国分尼寺跡はパス。11月の高尾山で“女坂”を歩くことで埋め合わせします。

国分寺の後継寺とされる真言宗国分寺には、尼寺に寄進された国宝の梵鐘がありました。鎌倉円覚寺、金沢文庫称名寺の鐘と同じ物部国光の作です。

JR 相模線で寒川駅へ。寒川中央公園で昼食。寒川神社の一之鳥居と二之鳥居の間から、長い緑のトンネルの参道を歩きました。

寒川神社は、1600年もの歴史をもつ相模国一之宮です。拝殿を中心に回廊がめぐらされ、七五三で華やかでした。宮山駅から、再び相模線で海老名に出て解散しました。(吉田明弘)



左写真：陣羽織を着て先頭に立ち、アジア太平洋大会のアピールをする廣瀬健あずさ部長（中央） 右写真：富士五湖クラブとサンライズクラブ合同例会



YMCA Today

第22回あずさ部会

10月20日（土）に甲府21クラブのホストで、第22回あずさ部会が広瀬健部長の地元甲府市でおこなわれました。

甲府駅を降りて、美しい山々を眺めながら会場である岡島ローヤル会館に向かいました。部会にはゲストを含めて100人余りのワイズメンがあつまりました。ホストの甲府21クラブのメンバーは、揃いのグリーンのジャンパー姿で、意気込みを見せました。

廣瀬部長の挨拶から始まり、祝辞、主査の報告と進み、講演は甲府21クラブのメンバーである精神科医・功刀弘さんが「うつ病と認知症の予防」についてお話されました。認知症を予防するには、質のよい睡眠をとることが大事だと話されました。

2部は隣の会場で懇親会が開かれました。乾杯の後は、山梨英和中学、高等学校の生徒さんによるハンドベルの演奏を鑑賞しました。手のひらに乗るくらいの小さなサイズのベルから抱えなければ持てないような大きなベルを鳴らして、綺麗な音楽をつくりだしているのに感動しました。食事をしながら聞いたソプラノの歌声もすばらしかったです。『あずさの道』も一緒に歌っていただき、その良さを認識しました。

最後に来年仙台で開かれるアジア太平洋地域大会の成功を祈って閉会しました。（本川悦子）

富士五湖クラブ・サンライズクラブ合同例会を訪ねて

富士五湖・東京サンライズクラブの合同例会は9月29～30日に開催されるはずでしたが台風の接近のため延期され、富士山五合目の佐藤小屋で10月6日（土）～7日（日）に開催されました。残念ながら参加者は半減してしまいましたが、楽しい例会となりました。

6日の朝、中央道が大渋滞やれやれ3時間半もかかり30分遅れで集合場所へ到着、皆さんと佐藤小屋へ向かい例会が開催されました。

参加者は京都洛中クラブ2、御殿場クラブ2、東京サンライズ3、東京武蔵野多摩1、東京西1、富士五湖11、計19人でした。そしていつもより早く午後4時から懇親会に移りました、皆さんとバーベキュー囲み楽しい時間を過ごしました。

京都洛中・御殿場クラブの方は午後7時に下山されました。そのころから台風の影響で風が強くなり雨も降りだし室内へ退却、そこで談笑。午後11時に懇親会をお開きにし消灯、休みました。

翌朝は風は強く吹いていましたが快晴、富士山も山頂まで朝焼けに染まり絶景でした。午前6時に加藤さんと山を下り帰京しました。（大野貞次）

○10月8日「第35回オール東京YMCA・近隣YMCA会員ソフトボール大会」が開催され、各部リーダー、幼稚園児の保護者、職員等、賛助会企業からも参加がありました。ホテル学校からも有志たちが集まり、12チーム275人参加の中、3位の好成績！スポーツの秋らしい清々しい1日となりました。

○西日本豪雨災害のボランティア報告会が10月17日に東京YMCA本部で開催され、管理職スタッフや会員など、約40人が参加しました。広島YMCAは安芸区のボランティアセンターと協力して支援活動を行っているが、東京YMCAから派遣されたスタッフ4人から、いまだに困難な状況にある現地の様子や、家屋の泥だしなどの作業を通して感じた事などが報告されました。引き続き全国YMCAが協力して、2,500万円を目標に募金活動を継続しています。

○「第20回ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会」が、10月24日～26日に、ソウルYMCAにて開催されました。東京YMCAからは計8人が参加し、ソウル、台北、東京の各YMCA合わせて約40人が集結。「北東アジアの平和と安定—YMCAの役割」のテーマのもと、講演や各YMCAからの報告等が持たれ、課題とアイデアが共有されました。最終日にはソウルYMCA・115周年記念式典に出席しました。

（担当主事 木川 拓）

☆☆ インタビュー ☆☆ 河合 重三さんに聴く

* * *

河合重三さんは、富士クラブのチャーターメンバー、第15代東日本区理事です。(吉田明弘)



「河合さんと親しくなった頃、よく「おニイさん」と言われました。なんだか、からかわれているような気がしましたが、ある時、なにげなくロースターを見たら、私の方が、10日ほど早く生まれていました。その話を富士クラブの方にしたら、いかにも河合さんらしい、と言われましたよ。早速ですが河合さんは立派な体格ですが、何かスポーツを。」

「スポーツはやりませんでした。社会に出てからは、もっぱらゴルフで健康づくりでした」
「生まれも育ちも静岡ですか。」

「ええ、富士で生まれて富士育ち。大学は東京・新宿でしたが、新宿の親戚に下宿していて、週末には富士に戻っていました」
「現在のお仕事は。」

「幼稚園の理事長です」
「はじめから幼稚園ですか。」

「いえ、卒業後、証券会社に入り名古屋支店に配属されました」
「『ギョウちゃん』から『エンチヨウセンセイ』に転じたのは。」

「将来を考えて、29歳で証券会社を退職しました。『30歳にして立つ』と決意はしましたが、ボーリング場経営か幼稚園経営かで迷いました。家内が教員免許をもっていたのをよい機会ととらえて幼稚園を立ち上げました」
「ご自身もお遊戯なども。」

「ご想像にまかせます。試行錯誤しながら園児に接していました。今も子どもの育成に携われる幸せを感じながら、楽しい時を過ごしています」

「1988年にYMCAもワイズメンもない富士市にクラブを創設されました。どんな具合にクラブづくりが進んだのですか。」

「富士山部には、静岡県の西へ向かうという方針があつて、熱海YMCAの竹内敏朗理事長から青年会議所(JC)の縁で、地元の久能泰弘さんに話があり、JCやボーイスカウトの仲間や友人を中心に有志が集まりました。ワイズメのことは、誰も何も知りませんでした。ただ、『社会奉仕が目的』という言葉に魅かれたのだと思います」

「河合さん自身がチャーターメンバーになったのは。」

「JCの久能さんや友人の檜村好夫さんに誘われて熱海グロリークラブの竹内さんや牧野明也さんに出会い、クラブの立ち上げ準備からかわりました。京都国際大会のあった1988年にチャーター。メンバーは32人でした」
「その後、富士クラブが行っていた全国高校女子サッカー大会(40チーム)が参加する大会は、すごい事業でしたね。」

「大会は、3日間。グラウンドの手当てから、一時は40チーム1,000人を超える宿泊を引き受けホームステイ、寺院や公共の施設などでまかないました。諸般の事情で、9回(2002年~2011年)をもって中止しました。一方、1995年から今年で25年、富士市中学校招待大会を支援してきました。富士市の中学校を中心とした中学生のサッカー大会をやっています。サッカーブームですが、一部有名校以外はなかなか強いチームと対戦が組めないのが、喜ばれています。青少年育成は活動の原点と位置付け継続した活動として行きます」

「河合さんは、2011-12年度の

東日本区の区理事に就かれました。この年は、3月に東日本大震災が起き、秋には“事件”が発覚しました。理事として、いろいろ抱負をお持ちだったと思いますが、“事件”の処理で吹っ飛んでしまいましたね。

「そうでしたね。事件は9月末に明るみに出ました。まさに青天の霹靂でした。処理については、皆様の力をお借りして、メンバーを対象に説明会を開いたり、関係資料をワイズメンに公開するなど、出来る限り丁寧に、出来る限り正確に、誰にでも理解できるように、を心がけました」

「事件の処理を巡っては、責任を感じた元理事たちが協議して、方向を決め、実行は区理事に押し付け、責める形になりました。しかも元理事の意見が割れていました。クラブからも役員、常任役員からも厳しい意見や異論が出ました。最終的に現状回復という合意になりましたが、河合さんが理事で良かった。あそこで何か不意に発言すれば、区はガタガタになってしまったでしょう。こぼさず、耐えてもらったからこそ、今日があるのだと感謝しています。まさに大石内蔵助ですよ。」

「それは、どうも。当時は、理事スタッフにも打ち明けられなかったことが多々あり、心が痛みました」

「3年後に処理が、終了しました。今、どのように思われますか。」

「多くの方の尽力があり、無事に処理が終わり、ほっとしました。でも事件が終息した後に、かくも無関心になるものかと、ワイズメの将来を憂うところです。風化させてはいけないと思います」
「今までに、ワイズメに加わっていてよかったと思うことはなんですか。」

「私にとっては、やはり良い仲間と心開いて語り合い、おいしいお酒が飲めていること…ですか」
「ありがとうございます。」

旅で出会った人 ②

村野絢子

台湾

1995年、末娘の百合が ICYE (International Cultural Youth Exchange) で外国に出たいという。「英語の優れている人が欧米を希望するので韓国か台湾でもいいかな?」「隣国でも文化は大違い。行ってらっしゃい」。台湾に決まりその5か月後、冬休みに百合の住む台南市を訪ねた。

冬でも暖かい気候で、屋台も商店も混雑していた。驚いたことに百合が英語と北京語(台湾語は難しい)を達者に話している。ホームステイ先のご夫妻が関東学院

と同じ系列の英国系のミッションスクール・長栄学園に勤務されていたので、学校のすみずみまで案内してくださった。台湾の方たちの習慣なのか、忙しいからか、いつも屋台で買ったおかずの食事だったので、私が訪ねて初めてレストランのお食事に行くと百合は喜んでた。同じ交換生仲間のアメリカからのエリザベスと仲良しで、よく行動を共にしていたが、私の案内や買い物にもよく付き合ってくれた。気取らないきれいなお嬢さんだった。

帰国してひと月余りして「エリザベスが交通事故で亡くなった」との知らせが飛び込んできた。ショックを受けた百合だったが、彼

女のお父様はお医者さんで、アメリカから到着後、娘のすべての臓器、眼球を役立てて欲しいと献体を申し出られ、臓器移植が行われたことに感動していた。台湾での初めての事だったと聞いた。

親しい友の死を体験した百合は何時も一緒に買った小さなヒスイのイヤリングを身に着けていた。

**他クラブ訪問記****東京八王子クラブ**

東京八王子クラブ 10月例会は恒例の「中大ナイト」として行われると聞いたので、またあずさ部長の公式訪問ということで1年ぶりに参加させていただいた。

同クラブは若い人のグループと良いお付き合いをしているので、若い息吹を招じ入れたいと願っているわがクラブの一員として、日常的に行っている協働奉仕活動以外の「中大ナイト」と称する例会の運営一切を中央大学学Y「中大ひつじぐも」が取り仕切る様子を興味深く昨年に引き続いて体験させていただいた。

卓話は標題「STEP 台湾・高雄報告」、「IYCに参加して」、「夏期ゼミに関して」と、3人の学生(4年生と3年生2人)が要領よく堂々と発表されました。STEPでの体験やIYCでの外国の若者とのディスカッションやゲームの体験等、小生の疎い若い人たちの国際的交流の実態を、活き活きと語り、有益かつ楽しい報告でした。

例会の運営一切を取り仕切るということですから準備段階のことは知りませんが、受付、司

会、聖書朗読、食前感謝、ニコニコ報告、すべて学生たちが担当していました。同クラブのワイズと学Yとの協働は素晴らしいと思いました。(神谷幸男)

小旅行記

何を思ったか紅葉に覆われた山並みを見たくなくて、ロープウェーから紅葉散歩するという安易なバスツアーに参加して紅葉見物に出掛けた。

行き先は新潟県と群馬県の県境付近の山々。八海山ロープウェー、田代ロープウェー、苗場ドラゴンドラ(4人乗り)なる3つのロープウェーに乗って歩かずには壮大な山の紅葉を楽しもうという趣向。残念なことには紅葉の具合は今一であったが標高差による違いの変化、至近距離から見る紅葉と遥か遠方に見る紅葉の感じの違いを楽しむことができた。



苗場ドラゴンドラは山の中腹を横断するように設置されていて山の壁に沿って略水平に移動したり、急に上昇・下降を繰り返したりの25分間の走行で、景色とスリルを堪能した。

紅葉の美しさには見放されたがこの25分間だけでもこのツアーに参加してよかったと思った。

(神谷幸男)

**編集後記**

最近の世の中、何かおかしくなにか。19世紀に逆戻りしているように見える、と考えているうちにまたブリテン編集の役割が回ってきた。

「WHO報告」「旅で出会った人」、連載の「インタビュー」はこのブリテンに相応しい楽しい記事と思います。原稿を寄せていただいた方々に感謝します。

少々遅れましたがどうか発行に辿り着くことができました。製版、印刷の労を担ってくださった方に感謝します。(SK)